



東北大学史料館 だより

No.5
2005 Dec.

TOHOKU UNIVERSITY ARCHIVES NEWSLETTER

Index

- 2 史料館の二つの顔
史料館長 野家啓一
- 4 東北帝国大学の「学徒出陣」
研究員 永田英明
- 6 閲覧室から
文書の公開について
- 8 展示室から
企画展・常設展のご案内

左：東北帝大出陣学徒壮行式
昭和18年10月8日
(河北新報社提供)
下：仮卒業証書
(斎藤敬止氏寄贈)



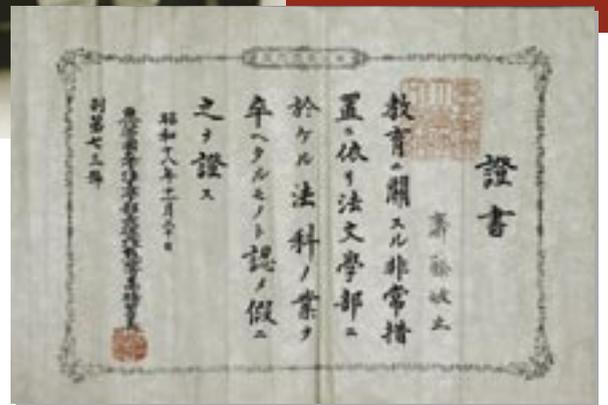
史料館古写真帖

東北帝国大学の「学徒出陣」

1943年（昭和18）10月2日、大学その他の高等教育機関に学ぶ学生生徒の徴集猶予が撤廃され、徴兵年齢に達した法文系および一部の農学系学生が兵役に服することとなった。いわゆる「学徒出陣」である。

東北帝国大学でも早速10月8日に片平キャンパス内の大学講堂前広場に全学部2000余名の学生を集め大学としての「出陣学徒壮行式」を開催。総長の壮行の辞に続いて法文学部学生代表が答辞を読み上げた（写真）。この後11月18日にも、東北・北関東学生を対象とした壮行会が宮城野原で行われている。

徴集猶予の停止により、東北帝大では徴兵検査に合格した法文学部生767名が12月に陸・海軍に入隊する。入隊直前の11月30日には、このうち来年9月に卒業する予定であった三年生250余名に、学部長名の「仮」の卒業証書が発行された。学業半ばで大学を離れたこの「仮卒業」者は、その後大学に戻ることもないまま翌年9月に「卒業」となる。卒業までに戦死した学生には、名前に「故」を付けた形で卒業証書が発行された。



史料館の二つの顔

東北大学史料館長

野家 啓一



本年4月に前任者の大西仁館長の後を受けて、非力ながら史料館長に就任いたしました。また副館長には、この10月から理学研究科の倉本義夫教授に就任いただいています。

本史料館の出発点は、昭和38年（1963）7月に設置された「東北大学記念資料室」に遡ります。これは Tohoku University Archives という英語名に見られるように「大学アーカイブズ」を名乗った国内の大学で初めての施設でした。アーカイブズは「公文書館」と訳されるように、政府の行政文書等を保存し公開する機関を意味します。もちろん政府機関とは異なり、「大学アーカイブズ」には大学独自の機能と役割が託されています。記念資料室の目的に「本学の歴史に関係ある記念となる資料を収集し、これを整理保存して、利用に供するとともに、本学の歴史に関する理解を深め、もって本学及び学術の発展に寄与する」と記されていますように、その主たる任務は本学に関する歴史資料の収集と整理保存を進めることにありました。

その後、この記念資料室は平成12年（2000）12月に改組・拡充され、「東北大学史料館」として生まれ変わりました。当時の運営委員会で承認された『東北大学史料館の将来構想』には、史料館の果たすべき役割が(1)情報公開制度との両輪による「開かれた大学」という理念実現の基盤、(2)歴史的視野を踏まえた大学改革・大学評価の情報基盤、(3)大学史に関わる教育・研究への貢献、(4)アーカイブズに関する教育・研究への貢献、という4つの視点から明示されています。この指針によって、史料館は単なる資料の収集と保存にとどまらず、情報公開制度に基づいた利用者サービスの充実、大学の歴史的アイデンティティを支える情報基盤、及びそれを通じた教育・研究への積極的貢献という新たな目標へ向けて一步を踏み出したといえます。

また、情報公開法の施行（平成13年4月）に伴い、国立大学には適切な文書管理システムの整備が求められるようになり、東北大学でも史料館が歴史的公文書の保存施設としての役割を担うことになりました。もちろん、膨大な公文書のすべてを保存することは不可能ですので、一定期間を満了した文書は廃棄されることとなりますが、そこでは評価選別を行うためのルールが必要となります。本学では平成17年（2005）3月に「東北大学における歴史的公文書の保存と公開のあり方について（報告）」がまとめられ、文書移管システムの整備や評価選別基準の策定へ向けて歩み始めました。

もちろん、大学が公的機関である以上、評価選別のルールは恣意的であってはならず、大学当局に都合のよい記録のみを保存し、不都合な記録は改竄したり廃棄したりするようなことは許されません。そこでは、厳正な客観的基準に基づいて資料を評価選別した上で、誰もがアクセスできるような形で整理・保存を行い、歴史の審判を後世に待つという謙虚な姿勢が何よりも重要です。ギリシア神話では、歴史の女神クレイオーは記憶の女神ムネーモシュネーを母として生れたことになっておりますが、記憶が歴史の母であるとするれば、「記憶の収蔵庫」としての史料館に課せられている責務はきわめて重いものと言わねばなりません。

さらに、平成16年（2004）には国立大学が法人化され、これまで国の一機関として文部科学省の保護を受け、一定の制約のもとにあった各大学が、独自の理念に基づいて教育・研究を方向づけ、それぞれの「個性」を競い合う時代に入りました。生れたばかりの赤ん坊にはいまだ個性と言えるほどのものがないように、個性を形作るのは、その人の経験の地層であり、歩んできた歴史にほかなりません。ここで「個性」を「アイデンティティ（自己同一性）」と言い換えることもできます。精神分析学者のE. H. エリクソンは、「アイデンティティの確立」を青年期に特徴的な精神状態と呼んでいます。それからすれば、国立大学は法人化によって親離れし、ようやく青年期に入ったと言えるでしょう。



書庫に配架された移管文書

そのエリクソンによれば、各人のアイデンティティは（1）自己の一貫性と連続性、および（2）他者による自己の中核部分の共有と承認、という二つの契機から構成されています。重要なのはこれら二つの側面がバランスよく発達することであり、前者のみが肥大すれば、「自分にとっての自分」しか存在しない独りよがりの人格になるか、あるいは「引きこもり」の状態に陥ります。逆に、後者の側面のみが過剰になれば、「他人にとっての自分」しか存在しない「世間体」のみを気にする人格が形成されることとなります。

同じことは大学についても妥当します。大学のアイデンティティ（個性）は、エリクソンの言葉になぞらえれば、（1）歴史的伝統の一貫性と連続性、および（2）社会による認知と評価、という二つの契機によって支えられています。それに応じて、史料館もまた二重の役割を担うことに、あるいは「二つの顔」をもつこととなります。第一の顔は、これまで述べてきましたように、記録文書や記念物を収集し保存する「記憶の収蔵庫」としての役割です。第二の顔は、それらを整理して一般公開することにより、「社会とのインターフェース」を推進するサービス機関としての役割です。この面でも、本史料館は、常設展示室の整備、年一回の企画展の実施、資料のデジタル化や目録の出版など、市民の方々の興味と関心に応える努力を続けてきました。戦後60年に当たる今年の企画展は、これまで歴史に埋もれていた戦時中の東北大学の実像を知っていただく、「『学徒』たちの『戦争』——東北帝国大学の学徒出陣・学徒動員」と題して現在開催しております。

東北大学は来る平成19年（2007）に創立百周年を迎えます。それに伴い、現在進行中の『東北大学百年史』の刊行をはじめ、私たちが東北大学の歴史を顧み、その個性と伝統を社会にアピールすべき機会も増えていくものと思われます。それだけに、これから史料館が果たすべき役割と責任は重要なものと言わねばなりません。幸い、史料館には優秀なスタッフがおり、熱意をもって仕事に取り組んでおりますが、何よりも業務量の膨大さに比べて人員の少ないことが大きな課題となっております。

もとより、史料館の機能は、全学的な協力体制があって初めて、十全に発揮されるものです。史料館としてもできる限りの努力を重ねる所存ですが、今後とも全学の皆様のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。次第です。

東北帝国大学の「学徒出陣」

史料館研究員

永田 英明

学徒出陣者の数

戦争中、東北帝国の教職員・学生の中からも多くの人々が徴兵され戦地に向かった。なかでも昭和18年10月に大学・その他の学生生徒に対する徴集猶予の措置が廃止されて以降、文科系を中心に大量の学生が学籍を残したまま陸海軍に入っていくこととなった。「学徒出陣」という言葉は狭義ではこの昭和18年の臨時徴兵検査による入隊者（入営・応召者）をさすが、これ以降敗戦に至るまでに入隊した学生を含めて使用されることも多いようである。こうした「学徒出陣」者の正確な数字を確定することは難しいが、昭和18年10月の臨時徴兵検査による文科系学部等の入隊者については、全国で大学生28000人余、旧制高校・専門学校生約19000人程度という推定値が出されている¹。

東北大学の場合、『東北大学五十年史』でも「出陣」した学生数は記されておらずまだ実態は十分に明らかにされていない。徴集学生の名簿なども残されて居らず全貌を把握するのは容易ではないが、断片的な資料はいくつか残されている。

18年度の臨時徴兵検査については、文部省からの照会に際して作成された統計が残されている²。これによれば、法文学部では827名の受検者がありそのうち92.7%にあたる767名が入隊したという。これ以前既に入隊済みであった者とあわせると864名となり、同学部在籍者の約三分の二がこの時点で入隊していた計算となる。一方理系学生は徴兵検査を受検したのち入営延期の措置がとられたため、実際にはほとんどが大学に残っている。しかしこの延期にも年齢制限があり、一定の年齢を超えれば理系学生でも徴兵され、この時点でも50名ほどの理系学生が既に入隊している。さらにこれとは別に朝鮮・台湾籍の学生12名が「陸軍特別志願兵」へ応募している。当時まだ朝鮮台湾籍の学生には兵役法は適用されていなかったが、この制度をたてにほとんど強制的に「志願」を迫られ拒否者には厳しい処分が待っていた³。

	在籍者数	臨徴受検者	臨徴での入隊	既受検者	入隊中の者	未適齢者	女子	朝鮮台湾出身学生	留学生
法文学部	1259	827	767	243	97	125	20	16 (12)	28
文科	137	52	47	46	4	8	19	6 (4)	6
法科	802	568	525	143	69	79	0	8 (6)	4
経済科	320	207	195	54	24	38	1	2 (2)	18
理学部	321	180		113	15	19	1	3	5
医学部	416	258		115	6	33	0	9	1
工学部	612	398		107	29	88	0	3	2

表1 昭和18年12月現在の各学部学生数と入隊者数

カッコ内は朝鮮台湾出身者中の陸軍特別志願兵志願者

¹ 蜷川寿恵『学徒出陣』(1998年 吉川弘文館)² 昭和十八年十二月二十七日「大学高等学校臨時徴兵検査受験者数等調二関スル件」(旧学生部移管文書『統計報告』所収)³ 姜徳相『朝鮮人学徒出陣—もうひとつのわだつみのこえ』(1997年 岩波書店)

18年12月以後もさらに入営・応召する学生は増え、19年8月に文部省に報告された統計では、東北帝大法文学部の入隊者数は902人となっている⁴。学部学生数に占める割合は74%つまり四分の三にまで高まった。

その後昭和19年10月および20年4月にはさらに新入生が入ってくるが、そのなかには既に大学入学以前に入隊していた者も多い。またもちろん、理科系学生の中にも在学中に「出陣」していった者は決して少なくない。これらを含む、敗戦に至るまでの「出陣」者の総数については、残念ながら全体像を把握できる統計資料は本学には残されておらず、個々の入学者について事実を確認していくしか方法はない。正確なデータを確定することは困難と考えられるが、信頼性のある程度の推計値を出せるよう、今後さらに調査を進めたいと考えている。

入営を控えた学生の心境

この「学徒出陣」という事態が当時の学生たちにどのような影響を与えたのか、学生たちがどのようにこの「学徒出陣」をとらえていたのか。これもまた非常に重いテーマである。

当館所蔵の中村吉治元経済学部教授の文書中に、昭和19年7月に中村教授が経済史の課題として提出させた学生達のレポートが含まれている、執筆した学生たちの多くは、19年度の徴兵検査を受検し秋以降の入営入団が決定していた。レポートには、既に前年秋に先輩や同級生たちの「出陣」を見送っていた学生たちが、入営を間近にひかえ何に向き合おうとしていたのか、その一端を垣間見ることができる。公開を許されたものの中から、一部を抜粋しよう。

- ・ 此の半年、色々な意味で考へさせられる事が多かった。ごっそり友達の去った中で、あれこれと思ひやった六ヶ月間と、一日々々と過ごして来て今振り返る六ヶ月間とは、よくもこう違ったものだと驚くほど違ふ。良い意味でも悪い意味でもさうだ。そして今又、此から入隊迄の日々をいとほしんで大切に暮らして行き度いと思つてゐる。…
- ・ …遅かった、余りにも遅かったと後悔の念が起こってきた。もう入営するまで百日余りしかない今になって漸く勉強が面白くなり、疑問を持つようになるとは。並べた本を眺め乍ら毎日焦燥を感じる事が多くなった。…



入営を控えた学生のレポート
(中村吉治文書)

戦時下における人心の疲弊を嘆き学生・青年の奮起が必要と自らを鼓舞する者、戦局の深刻さを正しく報道すべきと報道のあり方を批判する者、戦時下における文学や芸術の退廃を嘆く者。戦時下の経済統制政策を批評したり、東南アジアや中国における占領政策を理念と実態の乖離という視点から批判する者もある。とりあげるテーマも意見も実に多様で、それは簡単な総括を許すものではなからう。ただ、多くの学生のレポートに、戦局の悪化が誰の目にも明らかになる中での「出陣」について、様々な動揺や疑問を抱えながらも、その意味を何とか肯定的に捉えようとする「努力」の痕跡が各所に散見されるように思う。

当館では今年、本学における学徒出陣・学徒動員の実態に関する資料調査を行っている。調査はまだまだ不十分で残されている課題も多いが、現時点でのいわば中間報告の成果は、現在、開催中の企画展「学徒たちの戦争—東北帝国大学の学徒出陣・学徒動員—」で紹介させていただいている。本学の「戦争体験」を個人や世代を超えて共有していくためにも、この問題の調査は今後さらに継続していく予定であり、今回の企画展がそのきっかけとなればと考えている。

⁴昭和十九年八月二十八日「大学高等学校学生生徒数調二関スル件」旧学生部移管文書『統計報告』所収

閲覧室から

文書の公開について

史料館では2004年4月より、公開準備が完了した資料の目録を順次ホームページ上で公開しています。

2005年12月1日現在目録が公開されている主な文書は、以下の通りです。

※個人情報保護等のため、閲覧を一部制限している文書があります。

◆大学公文書

名 称	文書の年代	点数	主 な 内 容
旧庶務部庶務課移管文書 (1986年以前移管分)	1911 (明治44) ~ 1950 (昭和25)	31点 (簿冊)	イールズ事件関係綴(1950) / 寄附関係書類(1911) 東北帝大農学部設置趣意書 (1934) / ほか
旧庶務部広報調査課移管文書 (1980年移管分)	1913 (大正2) ~ 1916 (大正5)	18点	開学式来賓祝辞、東北帝国大学および仙台高等 工業学校草創期の卒業式告辞・答辞。
旧庶務部入試課移管文書 (1995年以前移管分)	1911 (明治44) ~ 1965 (昭和40)	170点 (簿冊)	教務書類 (1911 ~ 1950) / 農科大学進達書類 (1911, 1916) / 学事年報綴 (1911 ~ 1932) / 外国留学生関係 (1911 ~ 1919) / 教育に関 する戦時非常措置関係 (1938 ~ 48) / 教養部 審議会関係 (1964 ~ 72) / 卒業式関係 (1931 ~ 1955) / 卒業式告辞・答辞 (1947 ~ 1985) ほか
国際交流課移管文書 (2003年移管分)	1911 (明治44) ~ 1941 (昭和16)	14点 (簿冊)	在外研究員派遣関係 (外国留学生関係)
旧教養部文書 (1995年移管分)	1949 (昭和24) ~ 1964 (昭和39)	23点 (簿冊)	教養部運営委員会議事録
仙台医学専門学校文書 (1974・1995年移管)	1888 (明治20) ~ 1918 (大正7)	258点 (簿冊)	出願・入試関係 / 学籍関係 / 人事関係 / 会議関 係 / 人事関係 / 文部省・軍との往復書類 / 留 学生関係 / 解剖関係 ほか
第二高等学校文書 (2003年以前移管分)	1888 (明治20) ~ 1972 (昭和47)	124点 (簿冊)	教職員関係 / 戦災関係 / 尚志会関係 / 勤労働員 関係 ほか 同窓会関係文書も含む
仙台工業専門学校文書 (2003以前移管分)	1924 (大正13) ~ 1953 (昭和28)	27点 (簿冊)	教職員関係

◆関連団体文書

名 称	文書の年代	点数	主 な 内 容
社会経済史学会 東北部会文書	1941 (昭和16) ~ 1944 (昭和19)	26点	社会経済史学会は1930年 (昭和5) に経済史 専攻の研究者を中心に結成された全国学会で、 東北部会は1941年 (昭和16) 6月に発足した地 方部会。法文学部の国史研究室が事務を担当し ていた。資料は、1941年から1944年に至る時 期の同部会の運営に関する文書。
宮城医学校文書	1882 (明治15) ~ 1887 (明治20)	35点	宮城医学校は、1879年 (明治12) 以来県立と して運営されていた宮城病院附属医学校を同15 年7月に改称したもの。明治20年度をもって廃 止され、その生徒は同年設立された第二高等中 学校医学部へと引き継がれた。資料は同校の「学 事年報」等の作製に関する公文書で、本学名誉 教授が古書店から購入・寄贈したもの。

◆個人文書

名 称	文書の年代	点数	主 な 内 容
山形仲藝関係文書 医科大学教授／外科学 初代医科大学長 仙台医学専門学校長	1914（大正3）～ 1943（昭和18）	23点	初代医科大学長・山形仲藝氏の遺族の許に残された資料。①仲藝氏の書簡類と、②昭和18年に金属供出のため行われた「故山形仲藝博士銅像壮行清祓式」に関する資料の二つに大別される。
古田良一文書 法文学部・文学部教授 日本史（近世史）	1923（大正12）～ 1941（昭和16）	7点	戦前期の法文学部に関するもので、法文学部創設時に同学部設置の趣意書として作成された『法文学部ノ組織ニ就テ』や、昭和初期の法文学部の時間割表、戦中期の報国隊編成に関する学内文書等からなる。
佐武安太郎文書 医学部教授／生理学 第8代総長	1946（昭和21）～ 1948（昭和23）	61点	総長在任期間中のものに限られ、昭和22年5月の帝国大学総長会議に関する資料と、本学農学部の設置に関する資料からなる。いずれも佐武自身あるいは関係者の手によるメモ類が豊富に含まれる。
竹岡勝也文書 文学部教授 日本思想史	1936（昭和11）～ 1958（昭和33）	79点	九州帝国大学、北海道大学等で教授を務めた後、文学部日本思想史講座の教授として着任。九大時代以来の講義ノートや、論文の原稿などからなる。阿部次郎元法文学部教授の実弟。
中村吉治文書 法文学部・経済学部教授 日本社会経済史 （近世史）	1928（昭和3）～ 1967（昭和42）	336点	大学行政関係、教育研究活動関係、および日本学術会議関係の資料が中心。 大学行政関係資料の中には、戦時中の東北帝国大学報国隊・学徒勤労働員関係資料、新制大学および大学院院発足に関する資料、昭和30年代後半以降の大学管理制度問題や、東北大学管理運営問題検討委員会、東北大学総合整備計画などに関する資料等が含まれる。 研究教育関係では東京帝国大学在学中の受講ノートや、戦時中に執筆された封建社会成立史に関する著作原稿、講義ノート、調査ノート等が含まれる。

●東北大学関係写真データベースの公開

2004年3月より、東北大学関係写真データベースを公開しています。

当館に寄贈・移管された写真資料のなかから本学の歴史に関わる写真約3000点をデジタル化し公開しています。データベースは今後さらに充実させていく予定です。

<http://www2.library.tohoku.ac.jp/tua-photo/>



●第二高等学校刊行物データベースの公開

2004年7月より、第二高等学校で発行された各種刊行物のデータベースを作成・公開しています。『尚志会雑誌』をはじめとする旧制第二高等学校の学校刊行物は、近代日本を支える知識人を多数輩出した旧制高校の学生文化を知る資料として、従来より多くの利用がありました。今回公開したデータベースには各刊行物の目次までが入力され、必要な記事の有無をWeb上で確認できるようになっています。データベースは史料館ホームページ<http://www.archives.tohoku.ac.jp/>よりお入りください。なおデータベースに登録された資料はすべて当館で所蔵・公開しております。

展示室から

企画展

「学徒」たちの「戦争」

—東北帝国大学の学徒出陣・学徒動員—

平成17年11月1日(火)～平成18年2月24日(金)

平成18年1月5日(木) から一部資料の展示替えを行います。

※土日、祝日および年末年始(12/28～1/4)は休館。

会 場：東北大学史料館2階展示室

時 間：10時～16時(16時までにご入館ください)

戦後六十年にあたる今年の企画展では、「学徒出陣」「学徒動員」を中心に、戦時下における本学の学生生活についてご紹介します。

戦争が当時の大学に何をもたらしたのか。学生たちがこれをどのように受け止め、どのように生きようとしていたのか。当館に残る当時の生の資料約60点をもとに、戦時下の本学の实像に迫ります。



常設展示

歴史のなかの東北大学



平成17年4月1日より、新しい常設展示「歴史のなかの東北大学」を公開しています。

本学百年の歴史の動きを解説パネルや写真・資料を使って解説するとともに、キャンパスの今昔の風景、戦前・戦後の学生生活、東北大学で活躍した学者たちの営み、魯迅を初めとするかつての留学生たちの様子など、様々なテーマをたてて本学の歴史をご紹介します。

～資料の収集にご協力をお願いします～

本学の歴史を豊かに伝えるため、当館ではかつて本学にご在学、ご在職された方々、その他本学にゆかりのある方々に、お手許にある本学の歴史や学生生活に関わる資料のご提供をお願いしております。

ご協力をいただける方は、当館までご連絡をお願いいたします。

収集資料の例

本学での学生生活に関わる資料(各種学生団体の記録や印刷物、学生服・制帽など)

本学での教育研究活動に関わる資料(講義ノート、大学運営に関する各種の記録など)

本学に関する映像資料(写真、ビデオテープ、その他)

東北大学史料館だより 第5号 2005年12月1日発行 編集・発行 東北大学史料館

〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1 tel 022(217)5040

E-mail kinen1@mail.tains.tohoku.ac.jp URL <http://www.archives.tohoku.ac.jp>